

クリストフ・インゲンホーフェン氏 事務所紹介

Ingenhoven und Partner Architekten (インゲンホーフェン・ウント・パートナー・アルヒテクテン)は、デュッセルドルフに本拠を置くドイツの新進建築設計事務所。所員約 80 名。エンジニアリングとデザインとの融合を標榜し、デザインの質の高さ、環境配慮のエンジニアリングを取り入れた先進性が、最近ではドイツ国内や欧州だけでなく米国やアジアからも注目されている。

欧州では、イギリス王立建築家協会(RIBA)の作品賞を2年連続で受賞。主な招待展覧会としては、ベネチアビエンナーレ 2002、2004(シュツットガルト中央駅計画、AUDI パビリオン、UP TOWN MUNCHEN)、BIG and GREEN 展(ワシントン・アメリカ建築博物館、2003、RWE Essen タワー)、SKY HIGH 展(ロンドン・ロイヤルアカデミー、2003、UPTOWN Munchen 計画)などがある。日本においても各種建築メディアの紹介はもとより、日本建築学会刊の「ソーラー・アーキテクチャ」(仮称)には、彼等の代表作である RWE タワーも掲載される予定である。

インゲンホーフェン氏の設計の特色として、ガラスを内外壁に多用する「トランスパレンシー(透明性)」が挙げられるが、それは単なるデザイン(意匠)ではない。彼は結果としてたどり着いた建築の透明性が、居住環境の向上については生産性を上げると考える。例えばオフィスでは、外部環境を慎重にしかも最大限取り込んだ心地よい室内環境を用意し、同時に様々なワークスタイルを考慮し、さらに視覚的計画的に開かれた空間の実現がコミュニケーションとコンセントレーションの質を上げ、オフィスの生産性をあげると考える。その結果としての透明な建築となるのである。

インゲンホーフェン氏の基本理念は、居住者・利用者という人間スケールの視座から建築や都市については地球環境を考える「ヒューマニズム」にあるといえる。その理念がエンジニアリングのとの統合によって実現されたものが、彼らの環境配慮建築であり建築作品といえる。



クリストフ・インゲンホーヘン Christoph Ingenhoven,
Dipl.-Ing. Architect BDA, RIBA
1960年デュッセルドルフ生 45歳
1978年 1984年アーヘン工科大学(RWTH Aachen)、
デュッセルドルフ芸術大学(Kunstakademie Dusseldorf)卒業
1985年 Ingenhoven Architekten Ingenieure 設立。
2004年 Ingenhoven und Partner Architekten に改称。

日本におけるインゲンホーフエン作品

サンケイビル西梅田再開発プロジェクト

インゲンホーフエンによる日本初の実施プロジェクト。㈱サンケイビル・西梅田再開発のデザイン担当に海外建築家の採用が企画され、国際指名コンペが行なわれた。知名度・現代性・将来性という視点で、インゲンホーフエン(独)、フクサス(伊)、ペロー(仏)、グリムショー(英)の4名が選ばれデザインを競った。

2004年4月上旬、インゲンホーフエンがデザイン・アーキテクトとして選定され、三菱地所設計との共同設計が行なわれている。



サンケイビル西梅田再開発プロジェクト

所在地：大阪府中央区西梅田

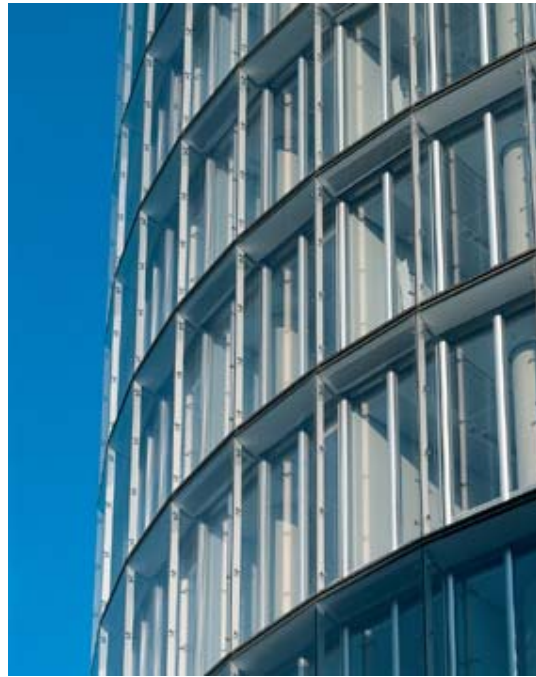
規模：容体約 79,200 m² 地上 34 階・地下 3 階
最高高さ約 177m

用途：貸事務所、演劇音楽ホール、商業施設

構造：SRC 造

期間：設計コンペ 2003 年 12 月 ~ 2004 年 4 月
基本設計 2004 年 4 月 ~ 2004 年 11 月
実施設計 2004 年 11 月 ~ 2005 年 3 月
施工 2005 年 8 月 ~ 2008 年 7 月

インゲンホーフエンの主な作品:



Headquarters RWE AG Essen

1991 年国際コンペ 1 位、1997 年竣工

既に本格的環境配慮建築としてドイツ建築史に記されている、IOA の代表作。

超高層完全個室型オフィス。ダブルスキンが温熱環境の緩衝体として、また超高層における自然換気を実現している。室内環境の個人制御と快適性、省エネルギーそしてエネルギー会社としての CI 創出を達成している。



Uptown Munchen

2004 年竣工

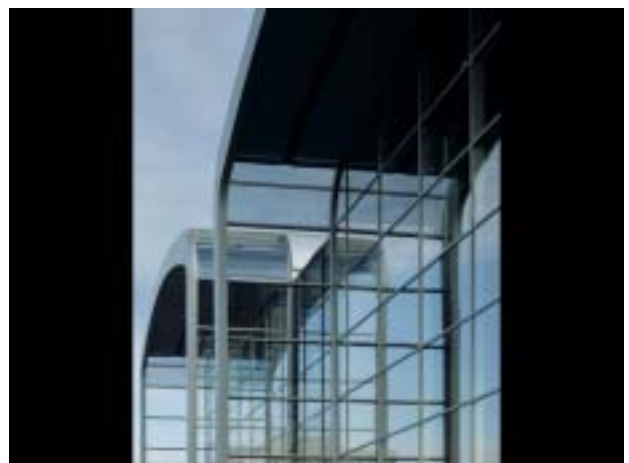
米国不動産開発会社によるテナントオフィス計画。ミュンヘンの高さ制限の基準であった聖母教会を超えた初めての本格的超高層。オープンオフィス型プランでシングルスキンと言うベーシックな仕様で、超高層での自然換気を実現した点は特筆に価する。



Ko Borgen (クー・ボーゲン)

2008 年竣工予定

デュッセルドルフの中心にたつ商業・事務所・ハウジングのコンプレックス施設計画。インゲンホーフェンが、市電ターミナル駅再開発計画を企画し市に提案して議会によって承認されたプロジェクト。市電により分断されていた既存公園の再生と都市の核施設創出がテーマ。



Gira Production and Administration Building

2002 年竣工

ギラ社スイッチ工場兼オフィスビル。本社立替増築計画の一期。効率的生産ラインと作業
者への室内労働環境の向上を目指したガラスの工場。工場にまでガラス建築が採用・実現
された好例としての評価が高い。



New Administration Buildings Lufthansa AG Frankfurt/Main

1999 年国際コンペ 1 位 2005 年竣工予定

フランクフルト国際空港と高速道路にはさまれて建つルフトハンザ航空の本社ビル。個室・コンビ・オープンタイプとそれぞれに可変対応できるオフィスプランを持つ。房状オフィスは、交互にアトリウムを挟んで配置される。ガラス屋根を持つ騒音・温熱緩衝体としてのアトリウムは、それ自体で自然換気を行うとともに、居室の自然採光・換気を可能としている。



Main Station Stuttgart

1997 年国際コンペ 1 位 2013 年竣工予定

ドイツ鉄道高速化計画の目玉として、終着駅型から通過駅型への変更と貨物引込み線跡地再開発がコンペとなった。唯一 IOA が地下駅を提案し、鉄路によって分断されていた地上部を結ぶという都市計画的視点が評価された。柱が広がり開口部となるユニークな形態が美しい。ドイツ省エネルギー法の最も厳しい基準であるゼロエネルギー建築を目指す。



European Investment Bank, Luxemburg

2002 年国際コンペ 1 位、2006 年竣工予定

透明な建築で、コミュニケーションとオープネスという企業精神を表出。都市環境と谷上げの風を考慮した中層のかまぼこ型建物は、6つのアトリウムと外皮が連携して自然換気を有効に行い、ガラス張りでありながらドイツ以上に厳しいスイスのエネルギー消費基準を下回るよう設計されている。ドイツ・グリーンビルディングの最新技術を集結している。



Nishi Shinjuku Project

KAJIMA DESIGN との共同

インゲンホーフエンの一連のプロジェクトと同様に、「フレキシビリティ(可変性)」、「トランスパレンシー(透明性)」をコンセプトに、ボリューム設定、平面計画、動線計画が組まれた。窓周りは、外部環境や熱環境、プランニングを考慮しながら服を着せ替えるように、部位にあったものを張ることが意図された。

(仙波武士:KAJIMA DESIGN)